

# わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎ 18

医学ジャーナリスト 植田美津江

## 外で食事をするとということ

「外食産業」という言葉もそろそろ耳に慣れてきた。

一昔前は、女性たちは男性陣と違って朝も昼も夜も家で食事をして過ごしたものだ。外で食べることは贅（ぜい）沢であり、イベントであり、特別な日でもあった。しかし、職業にかかわらずランチタイムに見てとれる女性たちの繁殖ぶりはどうだろう。ホテルやちょっとした料亭のお昼は女性のグループでいっぱいである。

今でも、クリスマスだ誕生日だとかの祝い日には家族で、あるいは友人や恋人と外で食事をすることは多く、そういう

ときの「外食」は雰囲気も料金も「特別」なものではある。

今回の話題は、そういうスペシヤルなものではなく、日常の「外食」について、である。

比較的気軽に、しかも安く美味しく食べられるところは格段に増えた。一時ファミリーストランが乱立したもののだが、今やひとりでも食事ができる店が続々出来てきた気がしている。これは仕事をする女性にはありがたい状況でもある。机の上で行う事務系統の仕事ならお弁当という手があるが、営業など人に会ったり外に出たりする仕事に就いている

場合はそうもいかない。あらゆる分野に女性が進出したことで、昼でも夜でもひとりで外食をしなければならぬ境遇にある女性も増えてきたことだろう。

そんなときカウンター中心の店は本当にありがた

### ひとりで入っても…



たい。

たとえば回転寿司やどんぶり物を扱う店、ちょっとしたファーストフードなどひとりで入っても少しもおかしくない店があちこちにあり、また結構繁盛もしている。客の回転も速く、女性ひとり

客はそれほど珍しがられなくなった。

食事をするためひとりでお店に入るのが抵抗なくなつたのはいつからだろうか。

子供のときは当然親に代表される大人と同伴であった。しかし、段々と

その相手は友達や恋人へと変わっていく、高校を卒業したてのころ、男の同級生とはじめて喫茶店で待ち合わせをしたことがあったが、周囲の友達から「へい、大人だね」とびっくりされた記憶がある。喫茶店のイメージも今とはずいぶん異なっていたのだから。

仕事をできるようになり、出張も増えてくると、自然と外でひとり食事をしなくてはならない機会が増えた。男性は気軽に立

ち食いそば屋や居酒屋などに足を向けるが、女性だと最初はちよつと恥ずかしい気がした。が、それも今は昔。立ち食いだろうが何だろうが、年齢に関係なく女性もひとりで食事をしてる光景は抵抗がない。ベトナムなどでは子供連れの家族でも朝から外食が当たり前、どこもかしこも自分たちにとって居心地のいい居場所になっている。

いつだったか、焼肉屋のテーブルでひとり黙々と肉を焼いて食べている若い女性を見かけたことがあった。その食欲の旺（おう）盛さと周囲がまわすの態度に頼もしさを感じ、思わず見入ってしまったが、彼女はどこでも生きていける人ではないか、そんな気がしたので覚えている。

(株)日本メデイカル総研 代表取締役

イラスト・三浦義雄